SAPパートナーが選んだ バックアップ製品

顧客企業の情報資産を守り、事業継続に寄与する



ユーザプロフィール

業種:システム開発会社名:株式会社ソフテス

資格:チャネルパートナー/サービスパートナー [SAPジャパン株式会社]

動機

株式会社ソフテスでは、導入コンサルティングのみならず、SAPインフラ基盤の構築から本番稼働後の運用サポートに至るまでSAPに関わることなら何でもワンストップで提供できるよう、サービスの幅を広げている。バックアップソリューションにおいても、常に最新の技術を検証して顧客企業に提案している。

経緯

SAPの仮想環境、データベース、OS、アプリ、全てにおいてバックアップでき、かつ、ハードウェアメーカーに依存しないバックアップソリューション探しが始まった。同時に、社内に新規導入することとなったHyper-Vと導入済みのVMware vSphereの双方に対応していることも条件に加えて、複数製品を検討した。その1つがArcserve D2Dだった。

検証

大がかりな検証環境を社内に構築し、バックアップ/リストア検証を実施した。Arcserve D2Dは、同社の前提条件を全て満たし、さらに、リストアは希望するシステムの時点に復元できたことから、SAPシステムにとってベストソリューションであると結論付けた。またさらに、当初の目的以外の効果も現れた。

効果

柔軟にバックアップが取れるようになったことで、より大胆で効率的な技術の蓄積ができるようになった。これは、顧客企業への次の提案に直結する重要な進歩である。また、今回確立した仮想環境のシステム保護体制は、動作検証済みの実例として顧客企業に推奨するとともに、BCP強化に積極的に活用していく。



arcserve[®]

ビッグデータ化に伴いバックアップ時間は延びている反面、グローバル化に伴いバックアップ取得時間に制限がある。 株式会社ソフテスは、この相反することを、業務を止めずに解決し、さらには、SAPと連携する複数社製品も含めた統 合バックアップソリューションを探し求めた。

『SAPシステムにとってベストソリューションを顧客企業に提案したい。』

SAP社のパートナー企業である同社の企業理念のもとに検証した結果、視認性の高いGUI、シンプルな操作性、そして Arcserve ブランドへの信頼から行き着いたのは、『Arcserve D2D』だった。

経緯

SAPコンサルティングサービス企業としての使命

株式会社ソフテスは、静岡県浜松市に本社を置く、SAP社のERP (Enterprise Resource Planning) 中心のシステムコンサルティングサービス企業である。日本に、企業向け基幹業務システムであるERPという概念が登場して間もない1997年に早くも創業。以来、顧客企業の規模、業種、場所に関わらずサービスを展開し、基幹業務システムの進化に先導的な役割を果たしてきた。

導入コンサルティングから運用サポートまでを一貫して行う同社の代表的なものに、「ユーザダイレクト方式」と呼ばれる導入手法がある。これは、会計分野なら経理部門、人事給与なら人事部門といった具合に、各業務担当者とソフテスのコンサルタントがダイレクトにやりとりしてシステム導入を進めるというものだ。合理的な業務のあり方を目指すことを双方共通の目的として、業務とシステムのギャップを埋めながら、会社全体にとって最適なシステムへと導いていく。中間に部門や組織が介在しないため伝言ゲームを回避でき、本当に正しい業務のやり方に徹底的にこだわってプロジェクトを推進することができる。時には、業務を今までと全く違うやり方に変えてもらうこともあるという。システムを刷新するのではなく、業務を刷新し、真の経営改革のためのシステム導入コンサルティングを伝統的な精神とする物事の本質をとらえたプロジェクト遂行が高い評価を得ている。

バックアップソリューションの選定プロジェクト

SAP ERPには、会計、販売、生産、在庫、購買、人事などの伝票データや、それらに関連するマスターデータなど、業務の中枢を担うデータが格納されている。システム停止はたちまち業務停止に繋がり、長引けば大きな損失や場合によっては業務再開が事実上不可能になる最重要システムである。

SAPシステムの設計や構築には、独特のインフラ設計の考え方やSAP Basis(ベーシス※1)に関する専門的な知識が欠かせない。システム 監視やジョブ管理などを考慮した運用設計にも広い知識と高い技術力が求められる。導入コンサルティングのみならず、SAPインフラ基盤の構築、リプレース、アップグレード、マイグレーション、仮想化、アーカイブ、パフォーマンスチューニング、本番稼働後の運用サポートなど、SAPに関わることなら何でもワンストップソフテスで提供している同社は、ビジネス停止の回避はもちろん、RPO/RTO(※2)も考慮したバックアップソリューションにおいても納得のいくものを顧客企業に提案したいという強い思いから、1つの製品を選定する社内プロジェクトを立ち上げた。

仮想環境の転換点

これまで主に活用してきたVMware社のvSphere仮想化技術に加え、Microsoft Windows Server 2012 Hyper-Vのテクノロジーの採用 も検討が始まった。Hyper-VはWindows OSの標準機能であり、顧客企業にとってメリットを享受できる場合がある。そのため、顧客企業が望めばただちに応えられるよう、スキルとノウハウを蓄積しておきたいと考えたのだ。

従って、バックアップソリューションの選定には、SAPの独自性と柔軟性に対応していることに加え、「仮想環境に対応していること」、「ハードウェアメーカーに依存しないこと」、「トータルバックアップができること」が条件から外せない。

検証

"SAPシステムにとってベストソリューションへの執着

バックアップソリューションを検証するための環境構築が始まった。最初に、同社のほぼ全システムを検証用としてHyper-V上にPOC(概念実



証)環境を構築し、そこに複数社のバックアップ製品を導入して比較検討していった。通常これほど大がかりな検証をすることはまずないが、同社のSAPコンサルティングサービス企業としてのこだわりとプライドが妥協を許さなかった。

仮想環境にも対応する、信頼のArcserveブランド

検証の結果、Arcserve D2DがSAPシステムにとってベストソリューションであると結論付けた。

特に決め手となったのは、対象となるシステム環境をそっくり丸ごとバックアップするにもかかわらず、希望する単位で戻すことができる点だ。 さらに、Arcserve D2DはMicrosoft Hyper-V、VMware vSphereの双方に対応しているディスクベースのシステム保護ソリューションである ことから、仮想環境を包括的にシステム保護できると判断した。

これまでも物理サーバのバックアップでCA ARCserve Backupを活用してきた信頼と実績があったが、今回の社内検証を通して、Arcserve の製品力の高さを再認識した。また、同社の顧客企業の多くがArcserve Backupを利用しており、そのシリーズ製品ということで商談の際に理解を得られやすいのもプラス評価だった。

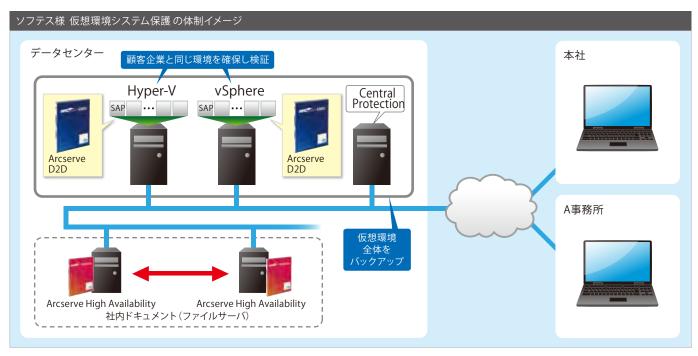
運用保守面では、メーカーのテクニカルサポート部門の対応も迅速で、そのサポート内容も具体的で提案が豊富であったため、これなら稼働後も安心してパートナーシップが組めると思った点も大きかった。

またこの期に合わせて、全社ファイルサーバのリアルタイムレプリケーション用としてArcserve High Availabilityも試験導入することになった。

効果

顧客企業と自社システムの保護に Arcserve D2Dを採用

当初は検証のみで、本番系システムでの稼働は予定していなかったが、Arcserve D2D がサービスのラインナップ拡充と品質向上をもたらす環境基盤になるとの経営判断により、2013年3月、Arcserve D2Dでの仮想環境システムバックアップを本格的にスタートさせた。同社のシステム環境の大半があるデータセンタにはArcserve D2Dの統括管理を行う製品Arcserve Central Protection Managerが設置され、これがHyper-V環境、vSphere環境のシステムバックアップ管理を一手に引き受けている。また、そのデータセンタでは、Arcserve High Availabilityを活用して、ファイルサーバのレプリケーションも行われている。



※1:SAPシステムでアプリケーションを統括しているシステム基盤領域。ユーザやデータベースとの通信と処理を制御する役割を果たしている。

※2:RPO:目標復旧時点(どの時点に復旧するか)/RTO:目標復旧時間(いつまでに復旧するか)



そもそも、顧客企業における情報資産の保護を同社のサービスに取り入れることを目的として始まったこのプロジェクトだったが、いざ Arcserve D2Dが同社内で本稼働してみると、想定以上の大きな効果が得られた。

Arcserve D2Dの導入によって、仮想環境の全体バックアップは所要時間が1/3に短縮された。これは一度フルバックアップを行えば、 以降は継続的に増分バックアップのみで運用できるArcserve D2Dのl2 (アイ・ツー) テクノロジーが実現したものだ。ファイル単位ではなく、 ディスクの変更をブロック単位でバックアップを行うので、あるシステムでは2時間以上かかっていたバックアップが5分で終わるように なった。

安心がもたらした成長

任意のタイミングでシステムバックアップが実行できるようになったことで、業務への取り組み姿勢に変化があった。

1つは、精神的に楽になった。その理由を、同社サポートサービス部リーダーは、次のように語る。

「必要な時にバックアップを取ることができるため、何かあってもこの時点のシステムの状況に戻せばいい、という安心感が生まれました。余計 な心配が無くなったため、調査や設定作業など、本来の業務だけに注力できるようになりました」

もう1つは、積極的に思いきったことができるようになった。同社のシステムインフラを設計、開発を統括する立場にあるベイシス部リーダー が満足げに次のように語る。

「システムインフラはシステム全体に影響を及ぼすテストや検証が多いため、いろいろ試してみたいことがあってもどうしても8割程度のと ころで躊躇してしまいます。Arcserve D2Dの導入によりバックアップの柔軟性が向上したので、今後は堂々と挑戦しながら我慢しないで 新技術の検証等を行えるようになりました。さらに、復元したいシステムの時点をびっくりするほど簡単に、任意の数だけ設定できる点 も個人的に大変気に入っています。こうした我々の技術と知識と経験の蓄積が顧客企業への次の提案につながるので、重要な進歩だと考え ています」

現在までにリストアを必要とする状況は発生していないが、問題なく復旧できることは検証済みだ。「リストア手順が簡単だったことと、 メーカーのテクニカルサポートに対する信頼も厚いので、もし何かあった時には落ち着いて対応できると思います」と同社ネットワーク エンジニアは語る。Arcserve High Availabilityに至っては、本稼働以後、全く手がかかっていないという。

今回確立した仮想環境のシステム保護体制は、動作検証済みの実例として顧客企業に推奨するとともに、システム保護サービスを積極的に 展開していく上でも大いに活用していく。今後のテーマはBCPの強化で、現在パブリッククラウドを絡めた構成を検討中とのことだ。 Arcserveシリーズはここでも有力候補となっている。

ユーザ企業様プロフィール



株式会社ソフテス

日本にSAP R/3が登場してまもない時期、早期導入で大きな話題になったヤマハ発動機のシステム開発メンバーが、スピンアウトして1997年に創業。 SAP 専業の導入コンサルティングサービス企業として10年を超える実績を積んできた、「業務側がシステムへの理解を深め、業務推進のために最適な システムを構築する」というこれまでになかった開発方法論を確立、システム構築の最適解として高い評価を受けている。

- ■本社所在地/〒430-0944 静岡県浜松市中区田町330番地の5遠鉄田町ビル4F
- ■設立/1997年9月
- ■資本金/1億円
- ■URL /http://www.softes.co.jp/



すべての製品名、サービス名、会社名およびロゴは、各社の商標、または登録商標です。 製品の仕様・性能は予告なく変更する場合がありますので、ご了承ください。 Copyright @ 2014 Arcserve (USA), LLC. All rights reserved.

Arcserve Japan

お問い合わせ窓口: ジャパン ダイレクト (0120-702-600) ※記載事項は変更になる場合がございます 2014年2月版

詳しくはWebで!

Arcserve.com/jp

PrintedÊinÊJAPAN

お問い合わせ